

良き企業市民として真に豊かな社会の実現に貢献するとともに、
地域社会と良好な関係をつくり上げます

2008
年度

注カポイント

- 難民キャンプなどへの古着支援活動の再開
- 地域貢献活動の強化
- 自治体・NPOとの協働活動

2008年度の状況

- 古着支援活動を実施
- アジアの植林、中東の人材育成など、海外における地域貢献活動を強化
- 新たな森林ボランティア活動を開始

2009
年度

注カポイント

- 「OKI愛の100円募金」の安定運用に向けた検討
- 国内外での地域貢献活動の強化

社会貢献の基本理念と活動体系

OKIは、1996年に「社会貢献推進室」（2008年11月「CSR部社会貢献推進担当」に改組）を設置し、基本理念・基本方針を制定しました。OKIグループもこの理念・方針に則り、寄付や保有施設の開放、社員のボランティア活動支援などを組織的に推進しています。

ボランティア活動には、月々の募金による寄付型の活動と、社会福祉や環境保全などに関連する参加型の活動があります。また、より幅広い活動を行うために、各種の非営利組織（NPO）と広く交流・協働しています。

寄付型ボランティア活動
「OKI愛の100円募金」

「OKI愛の100円募金」は、活動の主旨に賛同するOKIグループの役員・社員から毎月100円の募金を集める寄付型ボランティア活動です。2008年度末時点で、OKIグループ31社の役員・社員が参加しています。2006年度には一口を100円として一人最大3口まで寄付額を選択できるような制度を変更するなど、資金の安定確保と活動拡大に向けた工夫をしてきています。2008年度は、前年度に資金不足のため一時休止とした難民キャンプなどへの古着支援活動を再開することができました。

▶「OKI愛の100円募金」2008年度活動実績

日本赤十字社への献血運搬車寄贈	300万円 (マッチングギフトによる総額)
難民キャンプなどへの古着支援	144万円
重度障がいがある方の在宅就労支援事業への寄付	100万円
社員が関わりをもつボランティア団体の支援	297万円 (24団体を支援)

社会貢献活動 基本理念・基本方針

基本理念

良き企業市民として真に豊かな社会の実現に向けて、考え、行動し、共感を得る社会貢献活動を実践する。

基本方針

- 会社の活動
会社の資源(人材・資産)を活用し、地域や国情に合った社会貢献活動を継続する。社員が誇りと活力を実感し、また企業イメージを高めるOKIらしい社会貢献活動を志向する。
- 個人の活動
社員一人ひとりの人間性の発露としてのボランティア活動を推奨し、支援する。
- スローガン
できることから始めよう!



長野県赤十字血液センターに寄贈した献血運搬車(2009年2月)

難民キャンプなどへの古着支援

OKIグループは2001年度よりフェアトレードや難民支援などを手がける任意団体「わかちあいプロジェクト」による難民支援活動の一つ「古着支援活動」に参加してきました。これは、全国のグループ拠点で収集した古着を海外難民キャンプなどへ送付する活動です。



集めた古着を仕分けして送付
(OKIソフトウェア 岡山支社)

2008年度は段ボール箱544個分の古着を、タイのミャンマー難民キャンプに送りました。各拠点から国内集荷場所までの宅配便代、および海外輸送費を「OKI愛の100円募金」から拠出しています。

社員が関わりをもつボランティア団体を支援

OKIグループは、社員や社会貢献推進担当部門の申請に基づいて、社員と関わりをもつボランティア団体に「OKI愛の100円募金」による資金援助を行っています。2008年度は、実務に即したIT技術習得の講習会などを通じて身体障がい者の自立と就労を支援する特定非営利活動(NPO)法人ウィーキャン世田谷や、介助犬の育成や介助犬訓練者の養成、啓発、調査・研究活動などを行う社会福祉法人日本介助犬協会など、計24団体を支援しました。

参加型ボランティア活動

森林ボランティア「OKI 山と緑の協力隊」の活動

OKIグループでは、社員・家族が参加する「OKI 山と緑の協力隊」を結成し、地域の森林の整備を行うとともに、地元の方々との交流を深めています。

2008年度は、長野県小諸市の「OKIグループが育てる森」および群馬県高崎市の観音山にある「OKIグループふれあいの森」で、それぞれ2回除伐・間伐を行いました。また、新たに静岡県伊豆市の「OKIグループ伊豆の森」における森林整備活動を開始しました。これは、伊豆市とNPO法人地球緑化センター、OKIの3者が2008年4月に締結した「OKIグループ伊豆の森」森林整備および交流に関する協定」に基づく活動で、伊豆市より提供を受けた2haのフィールドを5年間にわたり整備していきます。第1回の活動では、2007年の台

風で倒木被害を受けたフィールドに、ブナ、ヒメシヤラなどの植樹を行いました。



「OKIグループ伊豆の森」にて

竹とんぼづくりを通じた貢献活動

OKIグループは「国際竹とんぼ協会」の協力を得て、1999年度からほぼ毎年、児童養護施設の子どもたちを招いて「竹とんぼ大会」を実施しています。2008年度は11月1日に東京都府中市の「郷土の森博物館」に16名を招待し、竹とんぼやあやつり人形をつくったほか、「江戸糸あやつり人形」の公演鑑賞などを行いました。



自分で作った竹とんぼを飛ばす子どもたち



江戸糸あやつり人形の公演

ラオス語絵本をつくって現地に寄贈

OKIグループはNPO法人「ラオスのこども」の協力を得て、「ラオス語絵本をつくってラオスの子どもたちに送ろう!」というイベントを毎年実施しています。日本語の絵本にラオス語の翻訳を貼ってラオス語絵本をつくるほか、ラオスにまつわるクイズなどを通じて、現地の文化への理解を深めています。

2008年度は、OKIグループの社員と家族、「ラオスのこども」の研修旅行に参加する学習院女子大学の皆さんなど38名が参加し、70冊の絵本を完成させたほか、初の試みとなるラオス文字のカルタづくりにも挑戦しました。

なお「ラオスのこども」は、ラオスでの読書推進活動が国際的な評価を受け、2008年9月、IBBY国際児童図書評議会(本部:バーゼル/スイス)より、朝日国際児童図書普及賞を授与されました。



ラオス文字のカルタ



自分でつくったラオス語絵本を手に記念撮影

国内外での地域貢献活動の強化

レバノンおよびトルコの大学と人材育成で提携

OKIデータは2008年、レバノンのノートルダム大学およびトルコのシスリ工業技術大学と、共同研究や人材育成について提携することで合意しました。

ノートルダム大学に設置する共同研究室「OKI Advanced Printing Center」



ノートルダム大学との調印式

では、共同研究を行うほか、次世代を担うデザイナー育成のための専門クラスを開設し、教育カリキュラムの作成、講師の派遣、教材となるカラーLEDプリンタの提供を行います。

またシスリ工業技術大学の共同研究室「オフィス機器研究所」では、教育プログラムの立案にも参加し、就業実体験を組み込むなど、オフィス機器に精通したメーカーならではの人材育成を通して、地域社会への貢献をめざします。



オフィス機器研究所にて

中国四川省大地震に災害救援金

OKIグループは、2008年5月12日に発生した中国四川省大地震に対し、労使共催の取り組みとして救援金の募金活動を実施し、役員・社員から寄せられた434万5,358円を6月に日本赤十字社に送金しました。また、国内グループ2社から400万円を日本赤十字社に、中国のグループ10社から1,252万円相当の現地通貨を中国紅十字会に、それぞれ寄付しています。

会社施設を開放し地域の皆様と交流

埼玉県蕨市のOKIシステムセンターでは、毎年11月に会社施設を近隣の皆様や社員の家族に開放し、「OKI蕨文化彩」を開催しています。10回目となった2008年は、社員の家族を招待しての職場見



防災コーナー

学会、社員有志のジャズバンドによるコンサートなどのほか、フリーマーケットや地元の警察・消防署のご協力による防犯・防災コーナーなども開設し、2,500名を超える皆様にご参加いただきました。